

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 25日

事業所名 わいわいはうす

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9		子どもの遊び方によっては、空間が狭くなることがあるため、身体を大きく動かしても良い場所など分かりやすく指定し、安全に過ごせるように環境を整えている。	遊び方や空間の使い方を工夫しながら、活動スペースが十分に確保できるようにします。
	2 職員の配置数は適切であるか	9		余裕を持ったスタッフ数で配置している。	余裕を持ったスタッフ数で安全に支援ができるよう努めます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	1	活動室は、ワンフロアになっているため、分かりやすい構造になっている。トイレに手すりを付けるなど、できる範囲で行なっている。	玄関に手すりがなく、咄嗟につかむとなると靴箱など不安定な場所になるため、今後できる限りで、手すりを付けるなどの検討をします。
	4 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9		掃除・整理整頓を行ない、きれいにしている。 広々とした空間で活動を行なうことができています。	清潔に過ごせるよう、環境を整えます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	9		朝のミーティングや必要時に会議をするなど適宜行なっている。	スタッフミーティングを細めに行い、職員と共に業務改善に努めます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9		毎年必ず評価アンケートを実施し、そこで出た意見を確認し、業務改善に努めている。	保護者会や定期的にアンケートを実施し、ご意見やご意向等を把握できるよう努めます。
	7 事業者向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行なうとともに、その結果による支援の室の評価及び改善の内容を、事業所の解放やホームページ等で公開しているか	9		結果を職員にも周知し、改善点や改善方法を話し合っている。	ホームページで公開しています。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	4	第三者による外部評価は行っていない。	第三者による外部評価は行っていません。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9		外部研修に積極的に参加するとともに、内部研修も定期的に行ない、資質の向上に務めている。	できる限りで外部研修に積極的に参加し、資質の向上に努めます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	9		アセスメントをしっかり行なった上で、子どもと保護者のニーズに合わせた支援計画ができるように努めている。	アセスメントを適切に行い、児童発達支援計画を作成できるよう努めます。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9		使用している。	今後も使用します。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9		「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目を設定し、必要な支援内容を検討している。	その都度、必要な支援を協議しながら、具体的な支援内容が設定できるように努めます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9		支援計画案を作成した後に、事業所内でケース会議を行ない、支援計画を共有し、計画に沿った支援ができるように努めている。	ケース会議及び必要時には協議を行ないながら、計画に沿った支援ができるように努めます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	9		職員全員で活動について検討したり共有しながら立案・実施を行なっている。	職員全員でより良い活動になるよう努めます。
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9		固定化やマンネリ化がないように工夫しながらプログラムを計画している。	楽しめる活動になるよう努めます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	9		個々に応じて、その都度課題等を設定しながら子どもに合わせた支援計画の作成を行っている。	個別活動や集団活動などを組み合わせ、状況に合わせた児童発達支援計画の作成に努めます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	個々で確認したことも全体で周知できるように共有を図っている。	職員間の連携を行なうとともに支援内容や方法等、全体での確認・周知に努めます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2	支援終了後に、支援記録に記載するとともに、気付いた事項等を口答で共有している。	報連相をしっかりと行うことで、職員全員で共有を図り、連携できるように努めます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		支援記録を必ず記載し、支援の検証・改善に繋げている。	日々の支援について、記録・確認を徹底し、支援の検証・改善に努めます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		6ヶ月毎にモニタリングを行ない、保護者のニーズや本人の状況、課題に合わせた計画を作成している。	定期的(6ヶ月毎)にモニタリングを実施し、ニーズや課題等を検討し、目標設定や支援の内容を設定します。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		児童発達支援管理責任者及び必要に応じて児童指導員が出席している。	児童発達支援管理責任者及び必要に応じて児童支援員の参画を積極的に行ないます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	1	地域の障害者基幹相談支援センターとの連携はできている。	今後、いろいろな関係機関との連携に努めます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在医療的ケアの必要な児童の利用はありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在医療的ケアの必要な児童の利用はありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	必要時には情報共有を図り、連携に努めている。	今後も必要に応じ、連携を図るよう努めます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	必要時には、担当者会議等に参画し、情報共有と相互理解を図っている。	今後も必要に応じ、連携を図るよう努めます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9		育成事業等に参加し、助言を求めたり、外部研修にも積極的に参加することで、他の専門機関との連携を図っている。	積極的に外部研修や育成事業にも参加し、他の専門機関との連携に努めます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	5	コロナ禍のため、積極的な交流の自粛を行なった。	交流の機会を検討し、できる限り交流を図るよう努めます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	4	自立支援協議会主催の研修や交流会に積極的に参加している。	今後も積極的に協議会への参加に努めます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		連絡帳及び帰りの送迎時に、様子など伝え、共通理解を図っている。	今後も継続します。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	2	家族支援の中で、助言を行なうことはあるが、ペアレント・トレーニングの支援までは行っていない。	対応力の向上を図るため、ペアレント・トレーニングの支援を行えるよう努めます。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		ご契約時に、丁寧な説明を行なうよう努めている。	今後も丁寧な説明を行なうように努めます。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		説明を行ない、同意を得ている。	今後も継続します。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		相談があった際には、適切に対応するとともに必要な助言と支援が行えるよう務めている。	今後も継続していきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9		年に1～2回、保護者会を開催し、保護者同士の交流と連携ができるよう支援に努めている。	今後も継続していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		適切に対応するよう、務めている。	今後も継続します。
	37	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		保護者向けにおたよりを発行したり、SNSで発信している。	今後も継続します。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		個人ファイルや電子媒体機器(USB)の持ち出しをしないなど取り決めを行ない、細心の注意を払っている。	今後も個人情報の取り扱いに十分注意を行ないます。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		伝わりやすいよう言葉を換えるなど、配慮している。	今後も継続します。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	5	コロナ禍のため、積極的な交流の自粛を行なった。	今後、地域住民を招待できる行事を検討します。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		避難訓練や防災訓練等、発生を想定した訓練を1回/月(年12回)実施している。	今後も継続します。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		地域の指定(緊急)避難場所まで避難する訓練や火災・地震時等の訓練を定期的に行なっている。	今後も非常災害時に備え、必要な訓練を実施します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		契約時やモニタリング時など保護者に確認を行い、職員間でも共有を図っている。	モニタリングや状況が変更になった際にも適宜確認を行ない、スタッフで共有を図ります。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9		重度のアレルギー疾患がある利用児童は、現在該当なし。花粉症など軽度なアレルギー疾患がある児童はいるため、保護者に確認を行ないながら適切な対応を行なっている。	今後、医師の指示書などが必要なアレルギー疾患を持つ児童が利用する場合は、指示書に基づき適切な対応を行ないます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		ヒヤリハットの事例が起きた場合には、速やかに「ヒヤリハット報告書」を作成し、事業所内で検討し予防に務めている。	今後も継続します。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		外部の虐待防止研修に参加し、その研修内容を事業所内で研修したり、事業所内の虐待防止委員会による内部研修も実施している。	今後も研修等を積極的に行ない、虐待に対する予防や適切な対応に努めます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		現在は、やむを得ず身体拘束を行なうに当ってはまる児童が該当しないため、それらは行っていない。事業所内の「身体拘束適正化検討委員会」の設置を行ない、定期的に委員会又は全体会議で検討している。	事業所内の委員会や全体会議等で、慎重に検討を行ない、そのうえで必要と決定された場合には、保護者への説明や支援計画書への記載またはその他必要な対応を適切に行ないます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。